

平成31年度 第1回 高山市総合計画審議会 会議録（要旨）

日 時：令和元年11月25日（月） 10時00分～12時10分

場 所：高山市役所4階 特別会議室

出席者：高山市総合計画審議会委員 23名（欠席者3名） ※別紙名簿のとおり
高山市企画部長、企画課長、企画課担当監、企画課係長、企画課担当

会議内容（次第）

1. 開会

市あいさつ（田谷企画部長）
会長あいさつ（堀会長）

2. 議事（議長：堀会長）

- (1) 第八次総合計画の見直しの考え方について
- (2) まちづくりの方向性等の設定について
- (3) 総合計画と総合戦略の統合について
- (4) 人口推計について
- (5) 地域のまちづくりについて
- (6) スケジュールについて

資料に基づき事務局が説明

議長（堀会長）

- 総合計画の見直しとまちづくりの方向性については、今までの審議会の中でもご議論いただいているところかと思う。いただいたご意見をとりまとめて、今説明されたような方向性を見出しているわけであるが、その内容についてご意見をいただきたい。
- 人口減少の問題を一つのキーワードとして、議論をすすめたい。

西永委員

- 昨年、高齢者安心センター構想について副市長に提案している。その内容はどのように検討され、どのように総合計画に反映していくのか。
- 総合計画を縦割りではなく分野横断的にすすめることは大切だが、行政組織が縦割りにある中、横断的戦略がうまく機能していくのかという点に疑問を感じて

いる。

- 若い人たちに高山に住もうと思わせることが大切。保育のあり方などでしっかり組み立てをしてもらいたい。
- 障がいを持つ子ども、特に発達障がいについては早い段階からの支援が必要。また、障がい児者の持っている優れた能力を有効に活用していく視点が大切。
- 国では、介護、医療などで、地域共生社会を目指している。地域づくりという面においてどのように組み立てていくか、具体的な取り組みが必要。
- 提示された計画での基本的な考え方としては理解。これらを具体化していく上において、企画部として各部局の取り組みを促していくことを願う。

田谷企画部長

- 総合計画を分野横断的にすすめることとしたが、逆に個別の分野別の方向性が見えにくくなるという部分もある。
- 従来の総合計画と個別計画では重複している部分が多くあったことから、総合計画は分野を横断した大局的なものとし、それぞれの分野の方向性については個別計画に委ねることとしている。
- 地域福祉計画の見直しにおいて、支え合いなどのネットワーク化の重要性について議論されている。
- 行政組織の中の縦割りについては問題点もあるが市民にとって分かりやすいこともある。まず総合計画において、分野横断的な考え方で大局的に示していくことで、部局別の考え方の意識の改革もすすんでいくものと考えている。

議長（堀会長）

- 総合計画は横断的に、個別計画は事業計画含めて分野別に示すということ。総合計画として、それぞれの各部署に対しても横断的にすすめていくというメッセージ力を出していくという部分かと思う。
- 先般の地方創生に関する有識者会議で、市民の方にとってどうやってお示しするのかという広報のあり方の指摘があった。市民の皆さんに、いろんな手法を使い、細かく、丁寧に説明し、市民へのメッセージ力を高めていくことも重要。

益田委員

- 視覚障がい者のための点字ブロックの移動経路への塗装や音響信号の設置などについては感謝している。しかし、全てが解決しているわけではなく、駅の匠通りや市役所本庁などは景観が優先されている。音響信号も、夜は音が大きいと近隣の苦情があり、音が小さくなっている箇所もある。
- まちづくりの方向性2の中にもある他者を思いやる気持ち、やはりお互いに譲

り合いの精神など思いやりの心が大切だと感じずにはいられない。

- 障がい者雇用について、今後のまちづくりに精神・知的などの障がい者や女性、若者、高齢者、外国人など、だれもが能力を生かして働くことができる環境を作っていただきたい。
- 身近な就労機会の拡大と農業分野などでの障がい者が就労する農福連携事業に市も積極的に取り組んでいただきたい。

中田委員

- まちづくりの方向性などの考え方については理解するが、現実問題として難しい課題もある。高山地域では、長寿会加入者の減少などにより、長寿会の運営が難しくなっている。長寿会組織の維持のため、現代にあった形に変える取り組みをすすめており、行政とともに方向性を出していきたい。
- 昔からの大事な土地が荒廃してしまっていることがあり、仕事がしたい高齢者と児童や学生などとともに、一緒に作業できる場所、生きる力が湧くような施設を作るようなことも考えていただきたい。

田谷企画部長

- 駅の点字ブロックについては、改善できる箇所は直した。実施する際の関係団体の方との話し合いや現場確認などが十分ではなかったことが原因と捉えている。今は関係団体や関係部署が複数入った中で話し合いや現場確認などをしており、そのような取り組みをしっかりと積み重ねていくことが大事と考える。
- 雇用については、子どもの時から将来に向けて働くということに対してどうしていくのかを考える機会が大切。
- 高齢者の問題も、生涯にわたって働くということ、地域に関わっていただくことが重要と考えており、いろいろ知恵を絞っていかなければならない。
- 地域の問題と産業の問題、そして一人一人の生きがいをどう組み合わせるかが非常に重要。

鴻巣委員

- 農業従事者の高齢化がすすんでおり、国の政策の中では、認定農業者などへの農地集積がすすめられている。農村地域の景観を観光資源とする記載がある。今まで地域で草刈りなどの保全活動をしてきたが、少数の担い手にこれまでどおりの保全を求めていくことは現実問題として無理がある。
- 地域内の資金循環の件について、単純に地元のお店を利用しなさい、市外からの資本が入っている店などをなるべく使わない方がいいという意味合いで捉えてもいいのか。

北村企画課長

- 農業を含め産業では、新しい技術の導入による効率化や生産性の向上を図っていくことが重要。また、環境保全の取り組みは農家だけに限らず、地域全体で取り組んでいくことも大事であると思っており、行政、住民事業者、地域団体など多様な主体の連携のもと、協働のまちづくりをすすめていく必要がある。
- 地域内循環は、できるだけ地域内で生産されたものを地域で使っていくことを推進していきたいという考え方。地域内に産業がないために市外に依存している産業では、起業や創業などにより、地域内で資金が循環するような状況になることが理想と考える。

田谷部長

- 市内の農山村風景は全国的にも誇るべきものがある。今まで以上にその価値を見出し、観光などの産業で活用することや市民の誇りとしての意識づくりなどにより、みんなで守っていくことが特に必要と捉えている。
- 地域内循環については、市外、都市部に頼っていることが市内でもできないか、地元で消費する手法を増やすことができないのかを考えることが必要。都市に依存するだけではなく、結果として地域内循環に繋がっていくことが大切と考えている。

鴻巣委員

- 新たな技術や機械は承知しているが、個人の負担が大きい。例えば、リース制度や新たな補助制度などの支援についても話し合っていきたい。

谷口委員（連合岐阜飛騨地域協議会）

- 総合計画と総合戦略の統合については、共通している部分が多く、このような形ですすめられることはよい。
- 人口減少、高齢化は、家族の形態に問題がある。高齢者世帯が非常に多くなっており、3世代の家族であっても、別の土地に家を建てるなど世帯が増えている。特に支所地域において、地域の支え合いや防災などに取り組んでいくためには大きな課題と感じている。
- 人材不足は、若い人が戻ってくる取り組みが非常に重要。少しでも戻ってきたいと思える、戻ってきてもらうための施策をすすめる必要がある。仕事や所得の問題のほか、居住の観点で若い人が高山に住みたいと思える施策が必要ではないか。
- 自分の代で廃業する予定と答える企業が多いことに驚いている。後継者の問題

は、労働の観点も含め非常に難しい課題であり具体的な取り組みが必要。横断的な対応をお願いしたい。

- 外国人労働者は、高山ではまだ少ないものの、法改正の影響などにより今後増えてくるという観点から、多文化共生の取り組みが必要。

田谷部長

- 世帯数はこれまで増えてきており、核家族化が進展。人口減少の中、世帯数が増える事実をどのように捉えていくかは非常に重要になっていると考える。
- 市内の空家調査では、2,300戸ほどの戸建て住宅の空家が存在している。空家の活用を積極的に取り組まなくてはならない。
- 外国人の雇用、就労ということを視野に入れていかなければならない。農業などで受け入れてみえるが、非常に難しい点もあることはうかがっている。市にとってプラスになる、より良い方向での外国人就労の方法を考えていかなければならない時期にきていると捉えている。

議長（堀会長）

- 外国人労働者の件は、市としての対応と、民間事業者としての対応が必要であり、市としては多文化共生社会をどのようにまちづくりにつなげていくのが重要。

谷口委員（飛騨農業協同組合）

- 外国人の研修生については、数十年前から取り組んでいる。農業の労働者不足の解決策として一定の機能は果たしているものの、長期滞在にまでつなげるにはなかなか難しい点がある。
- 地域別のまちづくりの方向性という設定は一つの切り口として必要。しかし、産業、農業、畜産の分野としては、地域を超えた枠組みでの取り組みが重要。
- ブランド化やマーケティングの強化が記載してあるものの、農畜産物においては、品質と量の両方が必要。生産基盤や生産量の確保、量の視点をもう少し加えていただきたい。
- 総合計画で当初設定した目標値はどうなるのか。また、実施計画の詳細な事業については、この審議会で審議していくことになるのか。

北村企画課長

- 現行の総合計画の中での市民満足度などの数値は、見直し後の総合計画においても記載をしていくことを考えている。次回の審議会には提案させていただく。
- 実施計画の全てを審議会にお諮りすることは現段階では想定していない。

蓑谷委員

- 働き方の改革は、しっかり取り組んでいく必要がある。
- 他の自治体ではやらないようなことをやってもらいたい。例えば、観光客が多い高山は土日が休日でなく、平日を休日にするとか。若者の中には受け入れるものも多いと思う。
- 若者が市内に帰ってこない理由は、給料が安い、遊ぶところがないという問題ではなく、普段の部分での魅力がないということが大きいと思う。子どもたちには、休みが欲しい、自由な時間が欲しいという意見が多い。高山に、この地域に帰ってきたいというようなものをもっと考えていくべき。
- 数多くの観光客の方が訪れる高山の魅力をうまく利用し、市に住んでもらうしくみづくりができるのではないか。東京に住みながら、高山に空家を取得し、週末は高山で暮らしている人もみえる。人口増とは言えないかもしれないが、この流れを作っていけないかと思っている。
- 市役所がスピーディーに動いていないと感じることがある。もう少しスピーディーに動いていただけるとありがたい。

澤田委員

- 事業承継の一番の問題は、事業を承継する次世代の後継者が見当たらないということ。したがって、企業の今後を担う若手をどう確保するのかということが主要な課題。
- 現状では、高校生が毎年1,500人ほど卒業する中、80%は市外へ流出。この現状にどのように歯止めをかけるかが、今後の計画の中で非常に重要なポイントになる。
- 人口減少をドライバー（原動力）として、いろんな戦術、戦略を考えていくという方向性は良い考え方である。
- まち・ひと・しごと創生総合戦略の総合計画への統合の方向性も良いと考える。
- KPIを単なる目標として設定しがち。あくまでパフォーマンスを示すものがKPI。中身についてもう少し練る必要がある。例えば、移住定住などの目標は何人移住したかではなく、何か月、何年留まったかが重要であり、何人・月などの単位でKPIを設定すると、より趣旨に沿った目標設定ができると考える。

村上委員

- 地球環境・生活環境について、必要性がわかっても課題が大き過ぎて、身近な問題として普通の市民には届かない。省エネを切り口に、熱を逃がさない、取り込まない住宅や自動車のハイブリット、高齢者のアクセルの踏み間違い防

止など、誰もが分かりやすい、身近な取り組みをすすめてもらいたい。

- 早急に解決していただきたい問題としては火葬場とゴミ焼却場の問題がある。

議長（堀会長）

- 行政の財源も限られてきている中で、まちづくり協議会を含めて市民の皆さんの目線でどれだけ何ができるのかということを考えていただく、そんな戦略が重要。
- 皆さんがそれぞれの立場で何ができるか検討いただくことが大切な視点かと思う。

橋戸委員

- まちづくり協議会ごとの地域特性、良さを生かして計画を立てるとの大きな改革をしていただいたことは本当にありがたい。
- まちづくり協議会ごとの計画を策定しつつも、市の観光は市街地の観光と周辺地域の観光をどのように結びつけ、考えていくのか、そのようなことを具体化、実現化していくことをお願いしたい。各まちづくり協議会でもそういうことも一生懸命考えていると思うので、連携しながら頑張りたい。

針山委員

- まちづくり協議会単位での計画、地域でしっかりやっていただくというのは非常に重要なポイントと考える。
- 各所から様々な地域の課題などが出てきており、地域と共有していただき、地域のまちづくり全体をうまく絡めて、発展的にすすめていただきたい。
- 教育の観点では、市長も含めた総合教育会議が設置され、横断的な取り組みができてきていると思う。
- 人口減少は大変心配。例えば、移住者が住居を持たれる場合に金融機関と保証人などの関係で苦勞されている方もみえることから、相談などにおいてそのようなネットワークも持っているとな非常に良い。
- 高山に住みたくない理由の中で第2位にレジャー・スポーツ施設や文化施設が少ないが挙げられている。公園整備などのほかに、総合的な拠点づくりが必要。
- 滞在型観光の促進とあるが、市民にとっての視点、ファミリー層の受入れの観点も必要。私案として、原山地区への市民プールなどを含めた集約など、原山周辺での長期的な計画を立てていただくのもいいと思う。

中畑委員

- 町内会加入率が減少していることは大きな課題。町内会の役員を受け入れる人がい

ないということで、町内会もある程度統合するようなことも視野に入れながら、町内会の存続を考えていかなければならないと考えている。

- 地域が主体となる活動も、住民の数がいないと何もできない。具体的な実施計画の中で高山に移住される政策、若い人が外へ出ないことを考えた計画にしていきたい。

関委員

- 総合計画と総合戦略の統合について、総合戦略は総合計画の中に盛り込まれるということか。

清水企画課担当監

- そのとおり。

関委員

- 総合計画の期間は、令和6年までの計画となるのか。

清水企画課担当監

- そのとおり

関委員

- 今回の審議会では、まちづくりの方向性とまちづくり戦略、地域のまちづくりが示されている。着実な行財政運営の推進は今後示されるということでよいか。

清水企画課担当監

- そのとおり

関委員

- この審議会の権限は、基本計画についての審議だけなのか、実施計画や財政計画まで含めての権限があるのか。

田谷企画部長

- 審議会については、総合計画の全てが審議対象であり、実施計画や財政計画も含まれる。
- ただし、総合計画審議会へ諮問させていただくのは、基本計画の部分について考えている。

関委員

- 総合計画がこのような形に変わる中、詳細な事業は、実施計画に移行されるということのようであり、いろんな問題と対策を見ないと判断はしかねると思う。ぜひ審議会でも審査の資料として提出して欲しい。

議長（堀会長）

- 各種計画を含めて実施計画がいろんな形で出てくる。基本的な部分について、審議会へ報告させていただくとの形でよいか。

関委員

- お願いしたい。

野中委員

- 建築物の耐震化の件で、補助金の2倍、3倍のお金をかけて改修することが大変という意見が多い。シェルター部分、寝室部分だけなどでも補助対象とできないか検討をお願いしたい。
- 市と病院との災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定で、町内会や消防団、病院の担当者などの意思疎通が図られず、機能しないことがあった。市役所や消防団、町内会、病院も共通の認識を持ったうえで、システム的に対応していく必要がある。

田谷企画部長

- 市として至らなかったとの指摘については、大変申し訳ない。担当部署とは細かな部分で確認をさせていただく。市としては、防災の対応は市全体を基本としているが、より地域に根ざした形にすべきと捉えており、一つの方法として、地域の事情や体制などに適合した地区防災計画の策定をすすめることも必要と考えている。
- いわゆる働き方改革というものは休み方改革でもあり、休日の過ごし方改革でもあると思う。市内の地域資源や地域の文化があるという中で、働き方改革が休みの過ごし方改革にも繋がっていくようなことも考えていきたい。
- 人口減少、少子高齢化の件について、人口規模もあるが、人口構造において下支えする年齢層を太くしていく形を作っていかなければならないと考える。具体的なところはまた次回審議会で議論したい。
- 地域のまちづくりでは、今回は、まちづくり協議会の範囲としているが、それが地域特性としてのまちの区分を必ずしも指している訳ではない。今回は、地

域にとって一番わかりやすい範囲として、まちづくり協議会別にしたという点は理解していただきたい。

3. その他
特になし

4. 閉会

高山市総合計画審議会委員名簿

(順不同・敬称略)

	団体等名称	役職等	委員	出欠
1	高山市観光連絡協議会	会長	堀 泰則	
2	高山商工会議所	副会頭	蓑谷 雅彦	
3	高山金融協会	会長	澤田 大輔	
4	高山市商店街振興組合連合会	副理事長	松葉 早百合	
5	連合岐阜飛騨地域協議会	事務局長	谷口 寛子	
6	高山市農業委員会	会長	鴻巣 明久	
7	飛騨高山森林組合	代表理事組合長	唐谷 清司	
8	飛騨農業協同組合	代表理事専務	谷口 寿夫	
9	高山市快適環境づくり市民会議推進委員会	委員	村上 千恵	
10	高山市景観町並保存会連合会	会長	川上 幸夫	欠席
11	高山市教育委員会	教育長職務代理者	針山 順一郎	
12	高山市社会教育委員会議	委員	京極 範子	
13	(一社)高山市文化協会	事務局長	関 善広	
14	社会福祉法人高山市社会福祉協議会	会長	西永 由典	
15	高山市民生児童委員協議会	副会長	平塚 外美	
16	高山市連合長寿会	会長	中田 幸男	
17	高山身体障害者福祉協会	理事	益田 美貴子	
18	(一社)高山市医師会		荒谷 睦	欠席
19	高山国道事務所	所長	竹島 大祐	欠席
20	(一社)岐阜県建築士事務所協会	飛騨支部長	野中 隆平	
21	高山市消防団	副団長	西 明浩	
22	高山市町内会連絡協議会	議長	中畑 稔	
23	三枝の郷まちづくり協議会	会長	下山 哲正	
24	国府町まちづくり協議会	会長	橋戸 須美子	
25	(公社)高山青年会議所	理事長	池田 憲一	
26	高山人権擁護委員協議会	委員	加藤 雅宏	